



バッハの森通信

第 138 号
2018 年
1 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森



「喜び」を歌う

二つの「フロイデ」の違いを超えて

新年、おめでとうございます。皆様は新年のお休みを、どのようにお過ごしになりましたか。

毎年、新年に私は、数週間前に開かれたバッハの森のクリスマスの余韻を味わっています。去年も、12月10日にコンサート、16日に音楽会と祝会を開きましたが、どの会も楽しい思い出になりました。なかでもコンサートでバッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」"Jesu, meine Freude" (BWV 227)をクワイアが歌った直後、奏楽堂に広がった雰囲気をおぼろげに覚えていることができません。演奏した皆さんは、20分以上かかって難曲を歌いきった高揚感に満たされ、聴いているうちに音楽に引き込まれていった皆さんは、カタルシス(共感から生じる解放感)を覚えてくださったようです。

* * *

しかし、クワイアは決して完全な演奏をしたわけではありません。6節のコラールに、聖句を歌詞とする5曲の自由曲を挿入した全11曲のモテットは、理解するのが決して易しくない歌詞を忠実に表現したバッハの音楽ですから、これを完全に演奏することは、はっきり言って、現在のクワイアの実力を超えています。しかも、今回はオルガン伴奏なしで切れ目なく歌い続けましたから、後半になると段々疲れが見えてきました。それが第10曲目ではっきり現れ、音程が取れないまま歌い出したので、数小節で中断して歌い直しましたが、この曲は終わりまで少々おかしくなりました。しかし、それに続く終曲のコラールは、見事に立ち直って全曲を歌い終わりました。

勿論、あってはならない失敗です。それにもかかわらず、演奏者と聴衆が一緒に充足感を味わったとき、これが私たちの求めてきた演奏だと思いました。これは、バッハの森記念奏楽堂に集まった私たちが、みんなで作った音楽だったのです。

このようなことを考えているうちに、誰でも知っている有名な "Freude" (フロイデ)を思い出しました。日本では年末行事になっている、ベートーヴェンの第九・終曲の合唱です。そこで久しぶりに、シラーの

原詩「喜びに寄せて」を読んでみました。

喜びよ、神々の美しいきらめきよ / (ギリシャ神話の楽園) エリジウムから来た乙女よ / 貴女の魔力は分断された人々を再び結びつけ / すべての人々は兄弟になる / 抱き合おう、数百万の人々よ / 兄弟よ、この星空の上に / 愛する父はおられるはずだ / 世界よ、創造主を感じるか / 星のかなたに彼はおられるはずだ。

以上はその一部ですが、いかにも欧州連合の賛歌にふさわしい分かり易い格調高い詩文です。アンシャン・レジームの打倒を目指し、自由平等の旗印の下、フランス革命に始まった市民革命の嵐が、ヨーロッパを吹き抜けた時代精神に満ち溢れています。この18世紀末、19世紀の若者たちの感動が、ベートーヴェンの音楽とともに今なお生き続け、多くの人々の心を捉えているのです。

それにしても、「イエスよ、私の喜びよ」の「フロイデ」(喜び)は余りにも違う「フロイデ」です。「イエス」、「神の小羊」、「私の花婿」が「喜び」だと言われても、その前提を知らない人には、当然、何のことだか分かりません。これに対して、世界の人々を結びつけて兄弟にする理念が「喜び」だと言う主張には、前提抜きで多くの人々が納得するでしょう。

ただ、残念ながら、19世紀の人々が抱いた崇高な理想とは逆の方向に歴史は動きました。20世紀に世界中の人々は憎み合い、それまで誰も経験したことのない戦争の惨禍と破壊によって、それこそ何千万もの人々が命を落としました。それを引き継いだ21世紀になって、不安定な世界で私たちは人類の自滅を危惧しています。

だから「イエスよ、私の喜びよ」に戻れ、などと短絡的なことを言う気は毛頭ありません。どちらの「フロイデ」も、間違いなく「喜び」を真剣に追い求めた人々の叫びであり、貴重な文化遺産なのです。その上で、もし、いささか複雑な前提を学ぶ努力を惜しまなければ、バッハのモテットが歌う「フロイデ」は、分断された世界を結びつけて人類を兄弟にする「喜び」が、どうしたら見つかるか考えさせる歌だと、私は考えています。

皆さん、一緒に考え、一緒に歌ってみませんか。ご参加をお待ちしております。(石田友雄)

イエスに魅了されて

各自が語り継ぐ降誕物語

*去る 12 月 10 日に、バツハの森で開かれたクリスマス・コンサートで朗読されたメディタツィオです。

ナザレのイエスの十字架から約 40 年後、紀元 1 世紀の 70 年代から 1 世紀末にかけて、イエスはキリストであったと信じる人々が、イエス・キリストの生涯と教えを伝える 4 冊の福音書をまとめました。これらの福音書が、その他の文書と共に「新約聖書」という一冊の聖典にまとめられるのは、その 300 年後、4 世紀になってからです。

その頃までに主に東地中海各地に誕生した信徒の群れは、ローマ帝国の迫害の下、先代、先々代から伝えられてきた信仰を命がけで守りながら、それを次の世代に伝えるため、イエス・キリストに関する言い伝えをまとめ始めました。こうしてまとめられた 4 冊の福音書は、それぞれ独自の姿勢でイエス・キリストを伝える個性豊かな書物になりました。まだ各地の教会が、一つの「クレドー」（信仰告白）を持つ教団に統一されていなかった時代のことです。

これから、イエス・キリストの降誕について、4 冊の福音書が語るそれぞれの物語を比較しながら、そのメッセージを明らかにしたいと思います。

ルカとマタイの降誕物語

まず、最も詳しい降誕物語を語るルカは、イエスの先駆者となった、バプテスマのヨハネの誕生物語に組み込む形で、ガリラヤのナザレの処女マリアに、聖霊によるイエスの受胎を天使が告知します。このことを、マタイは、マリアのいいなづけであったヨセフに天使が夢で知らせたと語り、ヨハネはそれを全世界が始まる前から存在した言葉、すなわち、神が、肉、すなわち、「人間になった」と説明します。

これに対して、マルコには降誕物語がありません。ただ一言、「神の息子、イエス・キリストの福音の初め」と述べた後、バプテスマのヨハネの活動から始めて、イエスの生涯と教えについて報告します。どうもマルコは、イエスが神の息子であることは、彼の生涯と教えが示しており、神秘的な降誕物語や神学的な解説によって語る必要はないと考えていたようです。

しかし、ルカとマタイは、愛するイエスの姿を伝え

るためには、どうしても彼の誕生にまでさかのぼらずにはおられなかった人々の間で生まれた、民話風の物語を伝えます。ルカによると、その頃発布されたローマ皇帝の勅令に従って、先祖の町で住民登録をするため、ヨセフはガリラヤのナザレからはるばるユダヤのベツレヘムに、みごもっていたマリアを連れて旅をしました。しかし、宿屋が満室だったので馬小屋に泊まると、マリアは月が満ち、そこでイエスを生み、飼ひ葉桶に寝かせました。イエスの誕生は、その地方で夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いたちに、天使によって知らされ、そこに現れた天使の大軍が神を讃美して歌いました。

いと高きところには栄光、神にあれ。

地には平和、御心に適う人々にあれ。

神の約束の成就

聞く者、読む者を引きつけずにはおかない見事な語り口で、全く無駄なく短くまとめられたこの物語は、実に多くのことを語っています。先ずナザレのイエスが、どうしてダビデの町、ベツレヘムで生まれたのか、ということ語って、イエスがダビデ家の血筋であることを知らせます。これは、イスラエル・ユダ統一王国初代の王ダビデに、神が与えた約束に基づいて、選民イスラエルの王であるメシアは、ダビデの息子、すなわち、ダビデの子孫から現れるという聖書に伝えられてきた信仰に従って、イエスがメシアであることを証明するためです。

次に、イエスの誕生が先ず羊飼いたちに知らされたという報告は、選民イスラエルの先祖である族長、アブラハム、イサク、ヤコブに神が約束したことを思い出させます。族長たちは羊飼い、すなわち、自分の土地を持たない遊牧民でした。神は、将来、彼らに定住する土地を与え、そこで子孫が繁栄すると族長たちに約束しました。「約束の地」のことです。イエスの誕生は、神が族長にした約束の成就を意味しているのです。

そこでマタイは、「アブラハムの息子、ダビデの息子、イエス・キリストの系図」という書き出しで、族長アブラハムからマリアのいいなづけのヨセフに至る長い系図を、降誕物語の序章にしました。他方、聖霊によってマリアがイエスをみごもった受胎告知と、イエスが誕生した夜、天使の大軍が現れて神を讃美した報告は、明らかに、イエスが天から地上に降った神の息子であることを告げていますが、同時

に、宿屋に泊まるどころがなかったマリアが、馬小屋でイエスを生んだというエピソードは、この世が神の息子の誕生を歓迎していなかったことを示しています。

この世の敵意

マタイは、もっとはっきりと、ユダヤの王、ヘロデが、生まれたばかりの天の王の命を狙ってベツレヘムに兵士を送り、多くの幼な児を虐殺させたことを伝えます。この事件は、馬小屋における誕生と共に、この幼な児が、最後に全世界から見捨てられ、十字架上で孤独の死を遂げることを暗示しています。

先走って、ヘロデの幼な児虐殺についてお話ししましたが、これは、マタイの降誕物語に出てくる事件です。マタイによると、イエスが誕生したときに、東の国の空に新しい王の誕生を知らせる星が現れ、それを発見したマギが、その星に導かれてエルサレムに来ました。マギとは、古代ペルシャの占星術師です。彼らは、星の動きを観察して天、すなわち、神のお告げを知り、それを人々に知らせる役目を果たしていました。新しい王はどこで生まれたのかと彼らに尋ねられ、驚いたヘロデは、新しく生まれた王の殺害を企み、その幼な児をみつけたら報告するようマギに命じました。彼らは再び星に導かれ、ベツレヘムで幼な児イエスがいる家を見つけ出すと、携えてきた宝物を捧げ、夢のお告げに従い、別の道を通って東の国に帰りました。だまされたと知って怒ったヘロデは、ベツレヘムの幼な児を一人残らず殺害させました。このとき、両親とエジプトに逃避した幼な児イエスは、ヘロデが死ぬと両親と共にユダヤに帰国しました。しかし父ヨセフは、ヘロデの息子が後を継いでユダヤ王になっていることを知ると、家族を連れて、ユダヤからはるかに離れたガリラヤ地方に行き、ナザレに住みました。

違う物語でも一致するメッセージ

このように、マタイとルカの降誕物語は全く違う二つの物語です。ルカでは、ナザレに住んでいたマリアとヨセフが旅をしてベツレヘムに来ましたが、マタイでは、もともとベツレヘムの住民であったイエスの両親が、ヘロデの幼児虐殺を避けて逃げたエジプトから帰国した後、ナザレに移住したことになっています。ルカは降誕物語の続きで、律法に定められた清めの期間 40 日が過ぎたとき、マリアとヨセフは、幼な児イエスを聖別するためエルサレム神殿に行ったことを報告します。ヘロデの幼児虐殺を恐れてエジプトに逃避した話とは完全に矛盾します。

このように、マタイとルカの降誕物語は全く違う物語なのですが、そのメッセージは完全に一致しています。まず、イエスがダビデの町、ベツレヘムで生まれたこと。すでに述べたとおり、これはイエスがダビデの血筋、すなわち、メシアである証拠です。次に、マリアが聖霊によってイエスをみごもったこと。ルカではマリアに受胎告知があり、マタイではそのことがヨセフに夢で知らされますが、勿論、同じことです。第三に、天で祝福されたイエスの誕生が、地上では敵意をもって迎えられたこと。すなわち、ルカでは天使の大軍が現れて神を讃美し、マタイでは東の国の空にメシア誕生を知らせる星が輝き、その星がマギをベツレヘムまで導きました。ルカとマタイが、それぞれ違うエピソードで、イエスの誕生に対する地上の人々の敵意を語ったことについてはすでに述べました。

これらのメッセージを、ヨハネはヨハネ独自の言葉で語ります。それによると、神は「言葉」（ギリシャ語でロゴス）であり、イエス・キリストも「言葉」です。この「言葉」は全世界が存在する前に存在し、全世界を創造しました。「言葉」は命であり光であったからです。しかし、この世に来た「言葉」を世は認めず、受け入れませんでした。ただし、「言葉」を受け入れて信じる者は神の子どもたちになれます。「言葉」は肉（人間）になって、私たちの間に宿ったので、私たちは恵みと真理に満ちた栄光を見ることができました。それは父なる神のただ独りの息子の栄光であり、彼はこれまで誰も見たことがない神を示していました。

各自が描くイエスの姿

謎めいた言葉なので解説が必要ですが、今は他の 3 福音書が伝えるイエス・キリストの姿と同じことを語っていると申しておきます。4 世紀になると、これらの、細部では相互に異なるがただ一つのメッセージを伝える文書は「クレド」(信仰告白)としてまとめられました。しかし、その後もキリスト教徒たちは、文書で、音楽で、或いは絵画や彫刻で、各自の思いに従ってイエス・キリストを描き続けました。これから演奏するモテット「イエスよ、私の喜びよ」も、そのような思いから生まれた音楽です。この現象は、アブラハムとダビデに神が約束したことを成就する、という歴史的使命を背負いながら、天の王国を地上に実現することを目指したナザレのイエスの生涯と教えが、人々を魅了し続けてきたことを示しているのです。(石田友雄)

小学生が体験したハンドベル

緊張して楽しかったです

去年、4月から8月まで、小学生のためのハンドベルクラブ「はじめてみよう！ハンドベル」を開きました。その午後の部に総勢11名が集まりました。男の子が三分の二を占める陽気で元気なクラスでした。8月20日の「夏休みの音楽会」で発表を目指して練習しましたが、その様子を小学2年生の僚太君が絵日記で報告してくださいました。

6月18日（日）晴れ

きょう、ごご、バッハの森でハンドベルの練習をしました。りょうくんや、かのんさんや3年生の女の子もいました。ぼくたちがれんしゅうしている、まうしろに、すごく大きなオルガンがありました。ハンドベルをふるとき、ベルがとんでいきそうなので、しんちょうにふりました。先生がメロディーをうたいながら、メロディーにあわせてハンドベルをならすのに、ぼくはきんちょうしますが、そのきんちょうかんが楽しかったです。あともう1回れんしゅうして8月にえんそう会があるので、がんばりたいです。

8月20日（日）晴れ

きょう、ごごバッハの森で、ハンドベルのえんそう会がありました。さいしょはすごくドキドキしました。まっているあいだ、学校の友だちとドキドキしながら、スライムであそんでいました。

ぼくがひいた曲 「ゆうべのうたごえ」

ゆうべの うたごえ 水べをこえて
しずかに ちかづき 心にひびく
ユビラテ よろこべ
ユビラテ ランランラン
ユビラテ よろこべ
ユビラテ ランランラン



夏の思い出 「いちばんドキドキしたこと」

ハンドベルのえんそう会の日、ぼくはきんちょうしかなかった。けれど、やるときはやるぞ、という気持ちになっておちつきました。なぜおちついたかという、ハンドベルをならすときに、きんちょうしたままやると、まちがえたり、おきやくさんにわらわれたりするからです。

そして、ぼくはできるだけハンドベルの音を大きくしました。けれどハンドベルをふるとき、手がすべってハンドベルが前におちそうでした。おもしろいハンドベルをもっていたので、とちゅう手がつかれました。でも先生に「よかったよ」とほめてもらいました。

2017 バッハの森のクリスマス



会員制作のクリッペ



声楽アンサンブル



皆でダンス



小学生のハンドベルクラブ

皆で支えるバッハの森

財政危機を皆で打開しましょう

一年中、ヴォランティアでバッハの森の会計事務をしてくださっている戸部慶子さんは、年に一度その報告を、毎年非常に苦勞して作成なさっています。これまで私はそれに一応目を通して、バッハの森の運営は大変なんだなあとは思いましたが、結局他人事のように見過ごしてきました。

振り返れば、一子先生が亡くなってから9年経ちましたが、この間、私自身は主人の転勤に伴い転居を繰り返し、双方の父母の介護や死去の対応に追われ、バッハの森にはすっかりご無沙汰してしまいました。一昨年の秋に母が施設に入所して少々落ち着いたので、久しぶりに「オルガン音楽研究会」に参加できるようになりました。友雄先生のお話は学ぶことが多く、やはり面白い、と楽しんでいました。

このような状況になってから、ようやく落ち着いて年会費納入のお知らせと一緒に入っていた指定寄附会計参加のお願いを読んだところ、バッハの森の財政状況が非常に逼迫していることが気になりました。そこで「バッハの森通信」に発表されている、過去10年ほどの会計報告を見直しました。そして「バッハの森の危機」と題し、友雄先生と慶子さんが連名で、バッハの森の財政状況にもっと関心を持って欲しいと皆さんに呼びかけている記事に、今更ながら気がつきました。これは2013年度の会計報告ですが、その年度と10年前を比較して、財政規模が約半分に縮小し、それでも年平均100万円の外壁塗装費がかかり、その結果、この年度は76万円の赤字となり、それを理事長からの借入金で補填したので借入金累計は4000万円を超えたことが切迫した口調で述べられていました。普通のおうちだったら、とっくに破産しています。

この状況を少しでも打開出来る方法はないものか、皆さんと話し合おうという気持ちが湧いてきたので、会計的観点から意見を申し上げたいと、友雄先生にお話したところ「客観的なご意見を聞くのは大歓迎です」とおっしゃってくださったので、9月末の運営委員会に参加して、自分なりの分析を発表させていただきました。少々過激な発言になりましたが、皆さんには良い刺激、発想の転換のチャンスと捉えていただくことができ、早速ほんの少しでも経費節約になることを実行しようということになりました。

こうして10月から、これまで當眞さんに頼り切りだったプログラムの事務を、まずは金曜日について、安西さんと私で担当することにしました。同様に、

土曜日のプログラムについても、ハンドベルと声楽・器楽アンサンブルの事務は、それぞれ担当するメンバーが決まりました。これは小さな一歩ですが、事務処理にかかわる参加者が増えることによって、バッハの森を皆で支える意識が高まることを期待しています。友雄先生は「無理はしないでください。各自出来る範囲で参加すればいいんです」と何度もおっしゃいました。この言葉は皆でバッハの森を支えていることを示しています。(松村治美)

LETTERS／レターズ／たより

文化に賭けることが大切です

2017年12月29日

ベルギー・ブリュッセル

親愛なる石田センセイ

2018年、新年おめでとうございます。先生がお元気でバッハの森が盛んになることを願っています。

狂気が溢れる世界では、文化に賭けることが大切です。そこで私は2017年に、活発に音楽を教えたり演奏したりしていました。多分、小さな貢献にすぎないと思いますが、政治的な改革運動より効果があるのではないのでしょうか。とにかく、世界中に政治的説教をする人たちは、もう沢山いますから。

4週間、ネパールに旅行しました。景色も人々も驚くほど素晴らしい国です。ちょっと登山をしましたが、我慢をして登ると、頂上には素晴らしい眺望が開けていました。2018年を象徴しているような気がしました。なお、20万のヒンズーの神々が守ってくれたので無事でした。お元気で。

ルプレヒト・ニーポルト

10. 5, 12, 19, 26 運営委員会 参加者各 4 名。
 10. 6 ハンドベル・デモンストレーション
 YMCA 幼保園。参加者 11 名。
 10. 11 訪問 故 Z. ヴェルプロヴスキー教授の 5 人
 の子どもたち。エルサレムより。
 10. 15 オルガン・デモンストレーション
 (鈴木由帆氏) 参加者 15 名。
 10. 21 取材 根本治氏 (常陽リビング)
 10. 29 オーボエ同好会 (責任者: 山本智子氏)
 参加者 18 名。
 11. 2, 9, 16, 30 運営委員会 参加者 5, 7, 4, 5 名。
 11. 3 桑田穰氏 ヴァイオリン・リサイタル
 参加者 60 名。
 11. 12 チェンバロ・デモンストレーション
 (鴨川華子氏) 参加者 14 名。
 11. 26 オルガン見学会 (BEATA)
 参加者 15 名。
 11. 30~12. 1 クリスマス飾り付け 参加者 8 名。
 12. 2 ゲネプロ (クリスマスの音楽会)
 参加者 15 名。
 12. 7 見学 OM マーケティング・クラブ
 参加者 10 名。
 12. 7, 14, 21 運営委員会 参加者各 5 名。
 12. 10 クリスマス・コンサート
 参加者 52 名。
 12. 16 クリスマスの音楽会 参加者 78 名。
 クリスマス祝会 参加者 22 名。
 12. 27 見学 神原進氏 (JGW 日本福音書房)
 沢木美恵子氏 (声楽家)

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ (JSB)

10. 7 第 423 回、三位一体後第 13 主日のカンター
 タ「あなたにのみ、主イエス・キリストよ」
 (BWV 33)。コラール「主にのみ、主イエス
 よ」。オルガン: J. パッヘルベル「あなたに
 のみ、主イエスよ」、海東敏恵。参加者 10 名。
 10. 14 三位一体後第 16 主日のカンタータ「誰が知
 るでしょうか、どれほど私の終わりが近い
 か」(BWV 27); コラール「誰か知る、終わりの
 いかにかに近きこと」。オルガン: J. S. バッハ
 「誰が知るでしょうか、どれほど私の終わ
 りが近い」(BWV 166/6)、笠間きよ子。
 参加者 10 名。
 10. 21 第 424 回、オルガン: J. S. バッハ「愛する
 神にのみ統治させる者は」(BWV 642)、
 笠間きよ子。参加者 11 名。
 10. 28 三位一体後第 21 主日のカンタータ「深い悩
 みより私はあなたに向かって叫びます」(BWV
 38); コラール「深き悩みより呼ばれるわれ
 に」。オルガン: J. S. バッハ「たとえ私たち
 に多くの罪があっても」(BWV 38/6)、
 安西文子。参加者 9 名。
 11. 4 第 425 回、オルガン: J. S. バッハ「深い悩
 みより私はあなたに向かって叫びます」
 (BWV 687)、安西文子。参加者 12 名。

11. 11 三位一体後第 24 主日のカンタータ「おお、
 永遠よ、あなた、雷の言葉よ」I (BWV 60);
 コラール「とこしえの時よ、いかずちの言
 葉」。オルガン: J. S. バッハ「おお、永遠よ、
 あなた、雷の言葉よ」(BWV 20/11)、
 當眞容子。参加者 12 名。
 11. 18 第 426 回、オルガン: J. S. バッハ「おお、
 永遠よ、あなた、雷の言葉よ」(BWV 20/
 11)、當眞容子。参加者 9 名。
 11. 25 アドヴェント第 1 主日のカンタータ「お前
 たち、喜んで高く舞い上がれ」(BWV 36);
 コラール「いざ来たれ、主よ」。オルガン: J.
 S. バッハ「父なる神に讃美が捧げられますよ
 うに」(BWV 36/8)、笠間きよ子。参加者
 12 名。
 12. 2 第 427 回、オルガン: J. S. バッハ「さあ来
 てください、異邦人の救い主よ」(BWV 699)、
 笠間きよ子。参加者 13 名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 10. 7/17 名、
 10. 14/17 名、10. 21/16 名、10. 28/13 名、
 11. 4/18 名、11. 11/15 名、11. 18/14 名、
 11. 25/18 名、12. 2/20 名、12. 9/21 名。
 オルガン音楽研究会 10. 6/6 名、10. 20/5 名、
 11. 10/9 名、11. 24/7 名。
 コラール研究会 10. 13/3 名、10. 27/4 名、
 11. 10/9 名、11. 24/5 名。
 クラヴィコード・オルガン教室 11. 1/2 名。
 オルガン・クラブ 10. 13/2 名、10. 27/2 名、
 11. 17/2 名。
 ハンドベル・クワイア 10. 7/4 名、10. 14/4 名、
 10. 21/5 名、11. 4/5 名、12. 2/5 名。
 声楽アンサンブル 11. 4/4 名、11. 25/4 名。
 器楽アンサンブル 11. 4/2 名。
 声楽教室 7. 8/1 名。
 チェンバロ教室 10. 6/2 名、10. 20/2 名、
 11. 10/2 名。
 読書会: 聖書 10. 7/4 名、10. 14/7 名、
 10. 21/5 名、10. 28/6 名、11. 4/5 名、
 11. 11/6 名、11. 18/4 名、11. 25/5 名、
 12. 2/5 名。
 ハンドベル・リンガーズ (小学生のハンドベル・
 クラブ) 10. 15/15 名、11. 12/11 名、
 12. 3/9 名、12. 16/8 名。
 オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
 10. 3/1 名、10. 4/1 名、10. 6/2 名、
 10. 7/1 名、10. 10/1 名、10. 11/1 名、
 10. 12/1 名、10. 14/1 名、10. 17/1 名、
 10. 18/2 名、10. 19/1 名、10. 20/2 名、
 10. 21/1 名、10. 25/2 名、10. 27/1 名、
 11. 1/1 名、11. 2/1 名、11. 4/1 名、
 11. 7/1 名、11. 8/1 名、11. 9/2 名、
 11. 10/1 名、11. 11/1 名、11. 14/1 名、
 11. 15/1 名、11. 17/1 名、11. 18/1 名、
 11. 21/2 名、11. 22/2 名、11. 24/1 名、
 12. 1/2 名、12. 6/1 名、12. 8/1 名、
 12. 9/1 名、12. 12/1 名、12. 19/1 名、
 12. 22/1 名。